

このニュースは都レンジャーの活動や、自然の情報などを皆様へお伝えするものです。

明治の森高尾国定公園  
指定50周年記念号

## 高尾山の自然は、誰によって守られた？

明治100年となる1967年（昭和42年）、高尾山一帯は明治の森高尾国定公園に指定されました。今年はその指定から50年となる節目の年です。

日本一小さな国定公園、年間300万人もの人が訪れる「日本一利用者の多い山」、そして2007年にはミシュランガイドで、最高評価の三つ星に認定された山—— その認定理由は

「都心から1時間で行ける場所なのに、ゴミが少なく、非常に多様な自然が残っていること」と言われています。しかし、その自然は何もせずに守られてきたものではありません。時代によって様々な人が、高尾山の自然を守ろうと努力してきた結果が今の高尾山なのです。

ここではその歩みを少しだけ紹介したいと思います。

### 奈良時代～鎌倉時代

高尾山の歴史は744年、聖武天皇の勅命を受けた行基が、高尾山薬王院有喜寺を開山したところから始まります。その後一旦荒廃していた薬王院は、中興の祖・俊源が飯綱権現を祀ったことにより、勢いを取り戻していきます。



高尾山薬王院の本堂。現在の本堂は、1901年（明治34年）に建立されたもの。



高尾山中腹の有喜苑仏舎利塔前に立つ飯綱権現の銅像。炎を背負い、右手には降魔の剣、左手には羅索を持ち、白狐に立ち乗っている。

### 戦国時代～江戸時代

飯綱権現は、戦勝の神として上杉謙信、武田信玄など多くの戦国武将の信仰を集めました。当時高尾一帯を治めた北条氏は、竹木伐採禁止のお触れを出して森林を保護しました。そしてその流れは徳川幕府にも引き継がれ、高尾の森は守られていきました。



葦山反射炉を作ったことでも知られる江川太郎左衛門（英龍）が植樹したスギ林。江戸末期のもので、高尾山で最も古い部類の人工林と言われる。

### 明治時代～昭和20年代

明治に入り高尾山の森林の多くは皇室の財産である御料林とされ、守られ続けました。1901年（明治36年）には浅川駅（現JR高尾駅）開業、1927年（昭和2年）にはケーブルカーが開通し、少しずつ高尾山を訪れる人が増えてきました。

そして第二次世界大戦後の1947年（昭和22年）、御料林は現在の国有林に引き継がれ、1950年（昭和25年）、高尾山から陣場山の一帯は都立高尾陣場自然公園に指定されました。

皇室御料林時代の境界石。8の字のような印は、宮内省（当時）の宮の字を図案化したもの。今でも稲荷山コースなどで見ることができる。



### 1967年 高尾山、国定公園に

1967年（昭和42年）12月11日、明治100年を記念して、高尾山は「明治の森高尾国定公園」に指定されました。それに先立つ同年10月1日、高尾山口駅が開業したことで、高尾山は「誰でも気軽に行ける山」になりました。



明治の森高尾国定公園の位置。高尾山から小仏城山までの範囲を中心に、面積は770ヘクタールと日本で一番小さな国定公園だが、植物は1500種、昆虫は5000種と多様な自然が残っている。また単体の山としては、日本で一番登山者の多い山と言われている。

### ゴミとの戦い、始まる

その頃から始まったのが「ゴミとの戦い」でした。多くの登山者が訪れるようになると、彼らが捨てていったありとあらゆるゴミが山内を埋め尽くしました。そこで山内にある6軒の茶屋、薬王院、高尾登山電鉄が協力し、定期的に清掃を始めましたが、ピーク時には毎週山頂から2トントラック2台分ものゴミを運ばねばなりませんでした。しかしゴミは一向に減りませんでした。